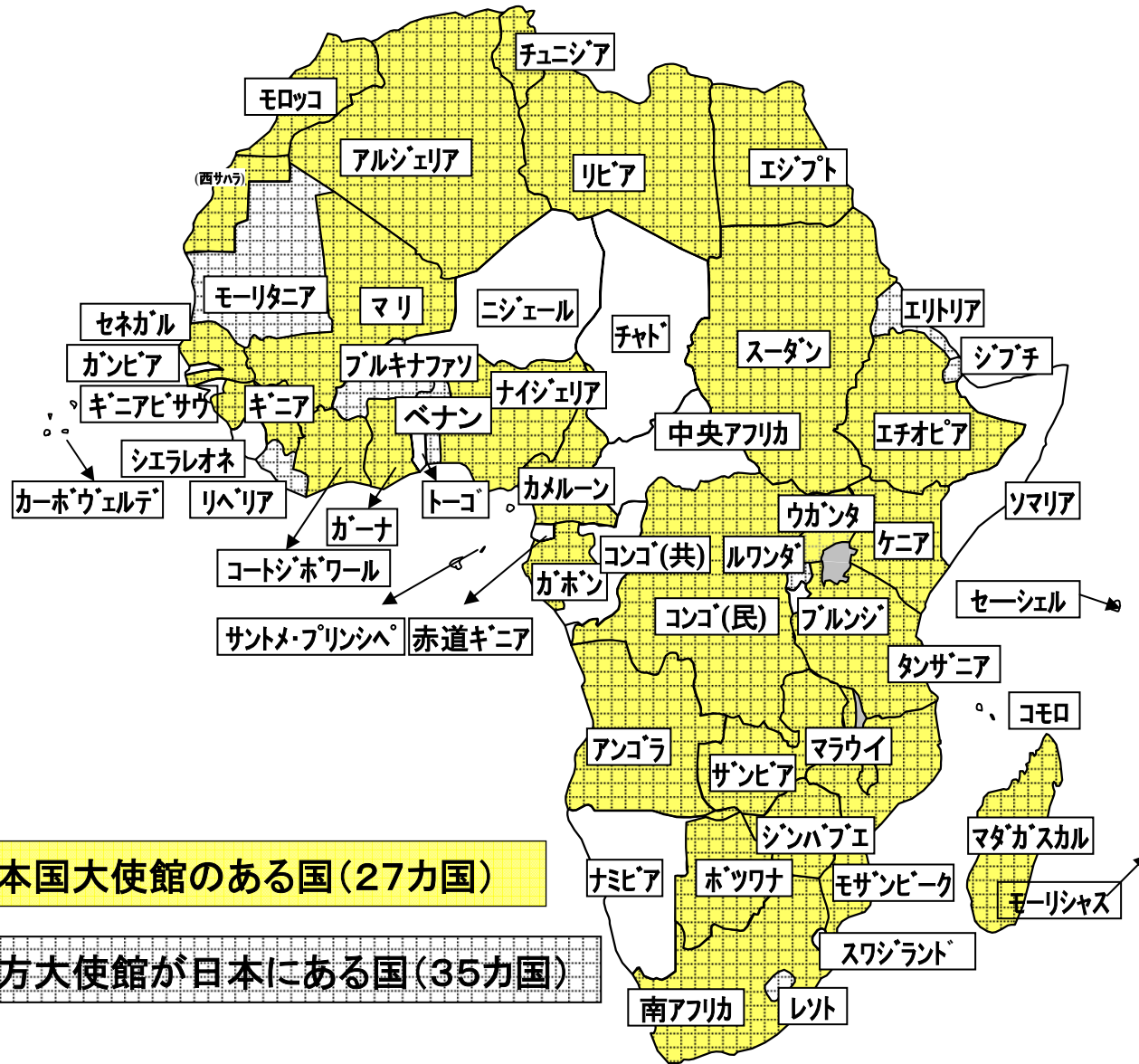


TICAD IVに向けた 我が国の取り組み

平成20年2月25日
外務省 中東アフリカ局
アフリカ第二課 首席事務官
松尾 裕敬

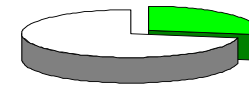
アフリカの国々



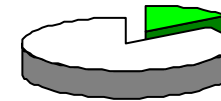
日本国大使館のある国(27カ国)

先方大使館が日本にある国(35カ国)

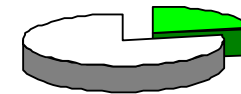
国の数 53ヶ国【48ヶ国】
(全世界の約28%【25%】)



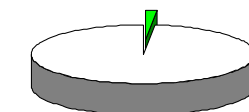
人口 約9.25億人【約7.5億人】
(全世界の約14%【約12%】)



面積 約3,000万km²
【約2,450万km²】
(全世界の約22%【約18%】)



GDP(総額) 約9,540億ドル
【約6,422億ドル】
(全世界の約2.1%【約1.5%】)

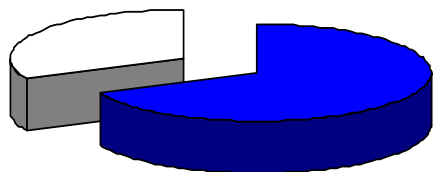


【1人あたりGDP 約745ドル】
※【】内はサブサハラ・アフリカ

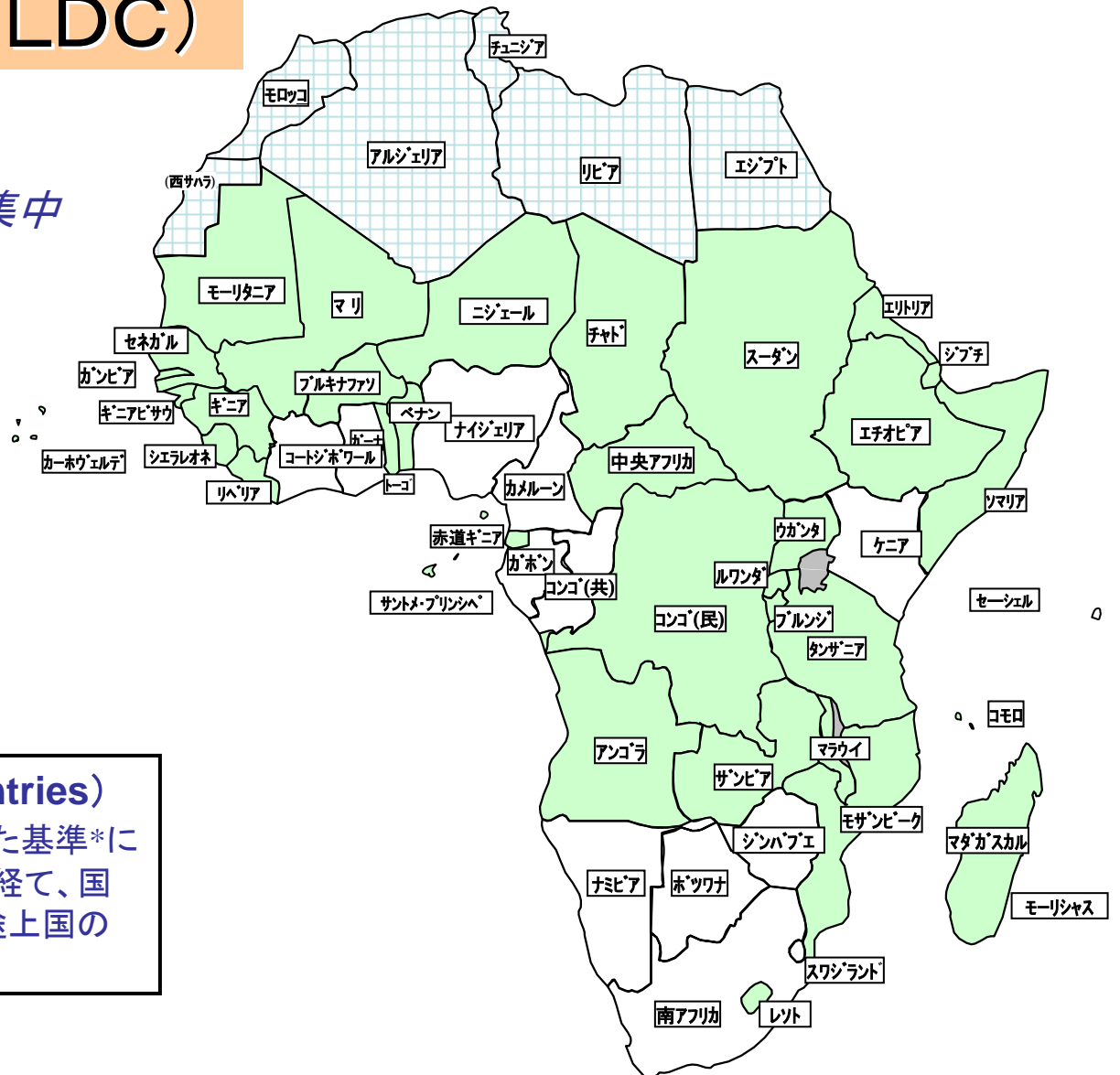
(2007年現在)

後発開発途上国 (LDC)

全世界で50カ国のうち、
サブサハラアフリカに34カ国が集中
(※スーダンを含む)



34カ国



※LDC (Least Developed Countries)
 国連開発計画委員会 (CDP) が設定した基準* に
 基づき、国連経済社会理事会の審議を経て、国
 連総会の決議により認定される。開発途上国の中
 でも特に開発の遅れた国々。

* LDCの認定基準(2003年時点)

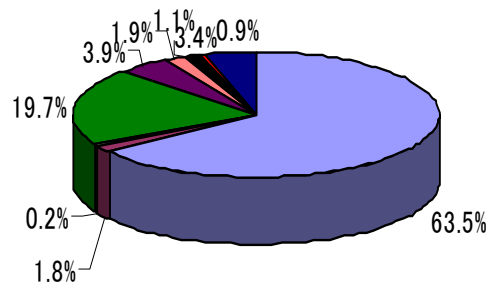
1人あたりGNI	人口	APQLI**	EVI***
750ドル未満	7,500万人以下	59未満	36超過

** APQLI: 人的資源開発の程度を表した指数。乳幼児死亡率等を指数化。 *** EVI: 経済的な脆弱性を表した指数。農業生産の不安定度等を指数化。

HIV/エイズ感染率・感染者数

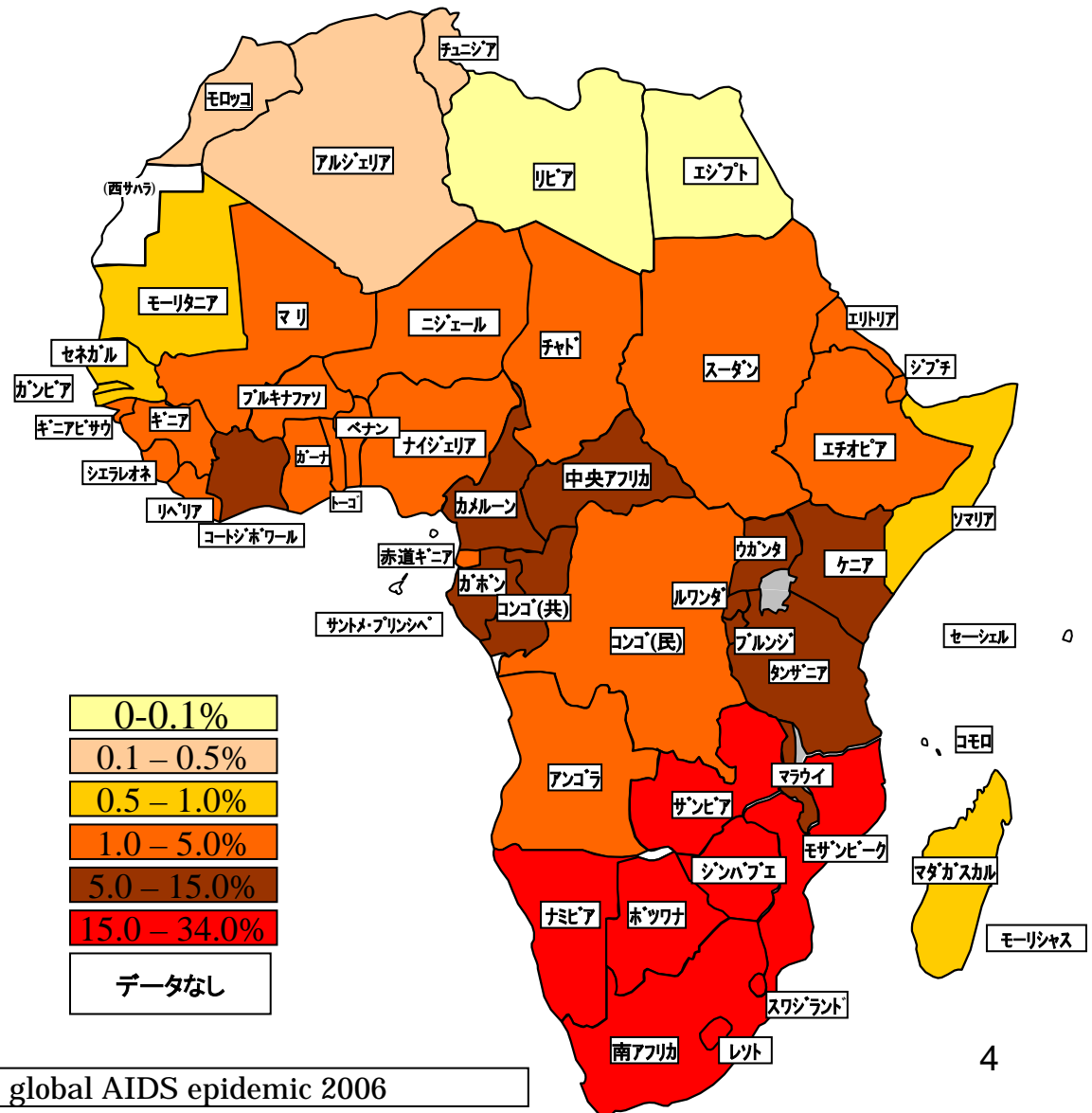
<集中する感染者>

約3950万人中2470万人(約63%)がサブサハラ・アフリカに集中



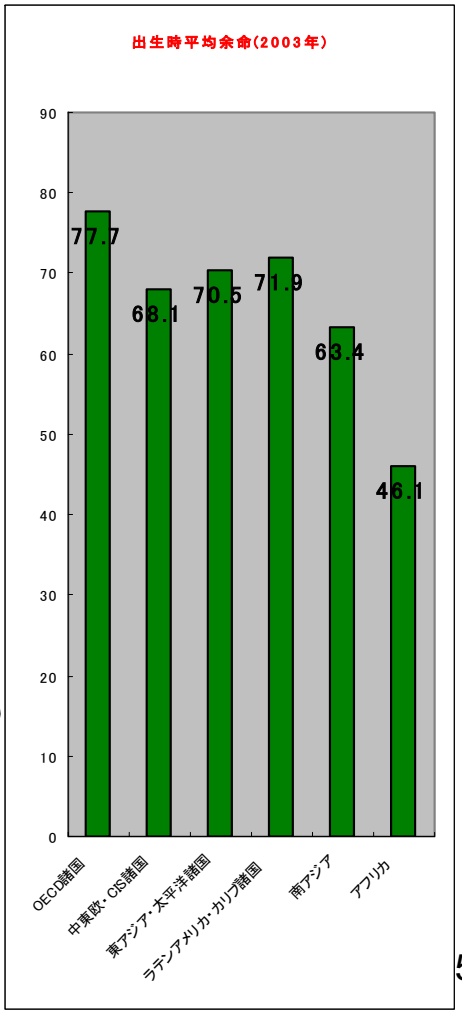
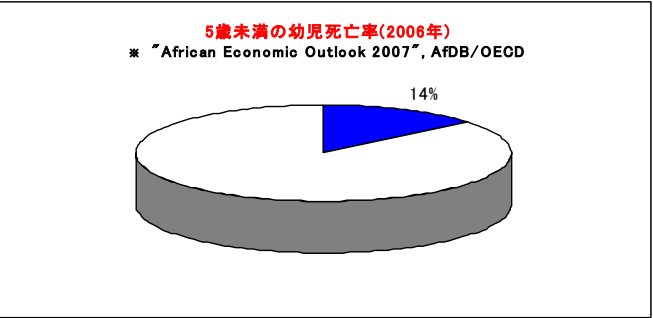
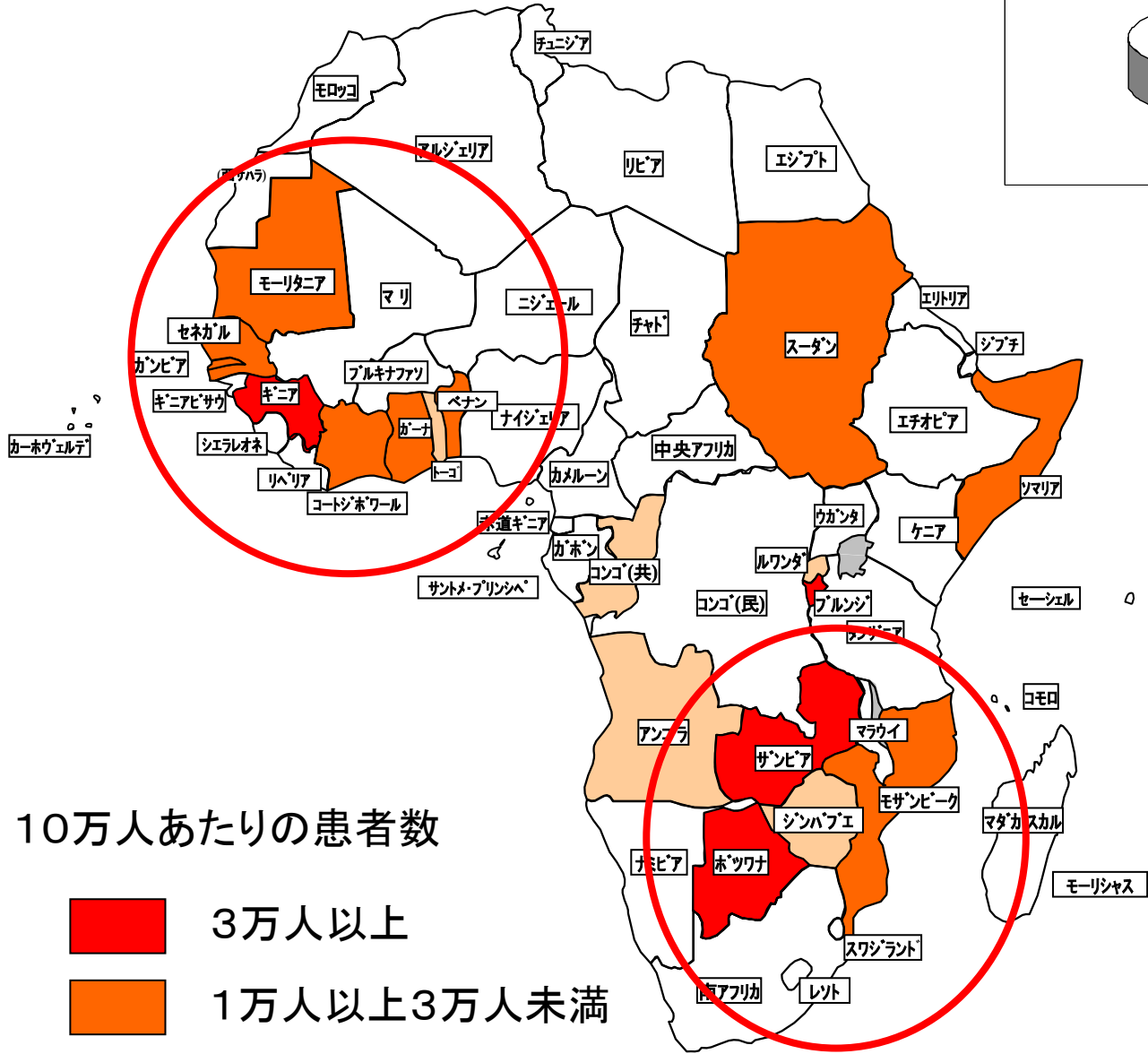
■ サブサハラ・アフリカ	■ 東アジア	□ オセアニア
■ 南・東南アジア	■ 東欧・中央アジア	■ 西欧
■ 北アフリカ・中東	■ カリブ諸国	■ 南アメリカ

<高い感染率> (15-49歳人口に占めるHIV/エイズ感染者の割合)



参考資料:UNAIDS Report on the global AIDS epidemic 2006

マラリア感染状況



アフリカにおける紛争状況

安定

ルワンダ
(PKO終了)
94年

アンゴラ
(PKO終了)
99年

シエラレオネ
(PKO終了)
05年

ブルンジ
(PKO終了)
06年

リベリア
PKO

コンゴ(民)
PKO

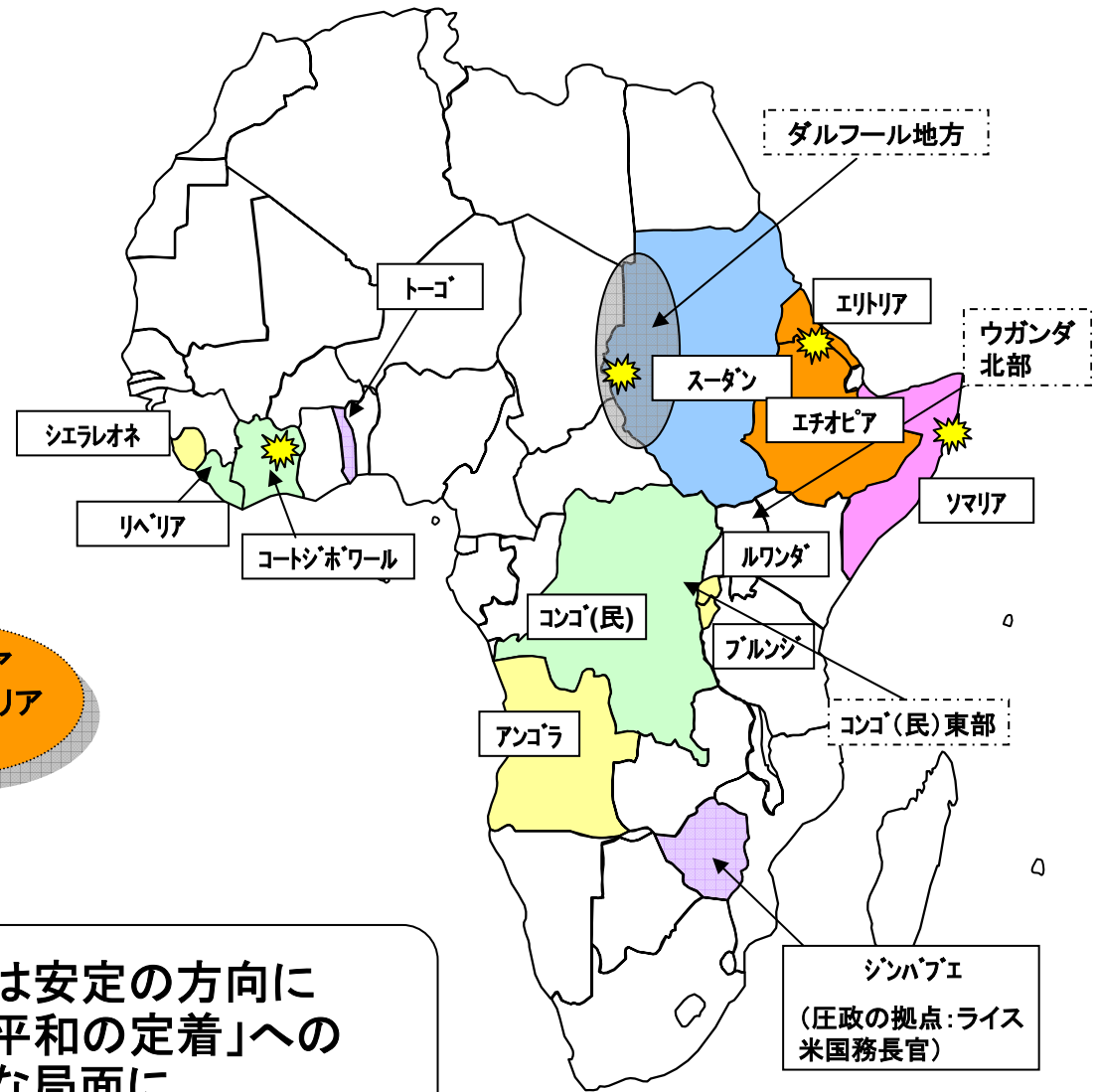
コートジボワール
PKO

スーダン
PKO

エチオピア
・エリトリア
PKO

ソマリア
(PKO撤退)

紛争



全体として流れは安定の方向に向かっており、「平和の定着」への支援がより重要な局面に。

世界におけるMDGs達成状況

目標	アフリカ		アジア				オセアニア	ラテンアメリカ カリブ	独立国家共同体 (旧ソ連共和国)	
	北	サブ・サハラ	東	東南	南	西			欧州	アジア
目標1: 極度の貧困と飢餓の撲滅										
極度の貧困半減							-			
極度の飢餓半減										
目標2: 初等教育の完全普及の達成										
初等教育の完全普及										
目標3: ジェンダー平等推進と女性の地位向上										
初等教育就学率										
賃金労働者の割合										
国会議員の割合										
目標4: 乳幼児死亡率の削減										
5才以下死亡率 2/3削減										
はしか予防接種 (リスク人口の85%)										
目標5: 妊産婦の健康の改善										
妊産婦死亡率 3/4削減										
目標6: HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病のまん延の防止										
HIV/エイズまん延防止										
マラリアまん延防止										
結核まん延防止										
目標7: 環境の持続可能性確保										
森林破壊防止										
安全飲料水のない 人口半減										
衛生設備のない 人口半減										
スラム居住者の 生活改善										
目標8: 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進										
若者の失業率										
インターネット利用者										

◆情報源: FAO、IPU、ILO、ITU、UNESCO、UNICEF、WHO、UNAIDS、UN-Habitat、世銀により提供された2006年6月現在のデータ及び推計

◆編集: 国連経済社会局統計部

(注) 枠の色は、2015年に目標を達成できるか否かについての傾向を示す。

■ 目標達成済み、または、達成間近。

□ 現状が続けば2015年までに目標達成が見込まれる。

■ 現状のままでは2015年には目標達成不可能。

■ 進展なし、または、悪化。

□ データが不十分。

2000年以降、アフリカにおける新たな動きが浮き彫りに

<アフリカの動き>

⇒アフリカの自助努力(オーナーシップ)の高まり

- 近年、アフリカ連合(AU、2002年OAUから発展改組)を核とする政治・経済面での協力の強化、統合へ向けた動きが大きく進展。
- アフリカ自身による開発計画「NEPAD(アフリカ開発のための新パートナーシップ)」が具体化、実施。(2001年採択)
- 準地域機関による地域協力・統合が進展。

アフリカの「オーナーシップ」と、それを「パートナーシップ」を通じて支えようとする国際社会のモメンタムの高まり

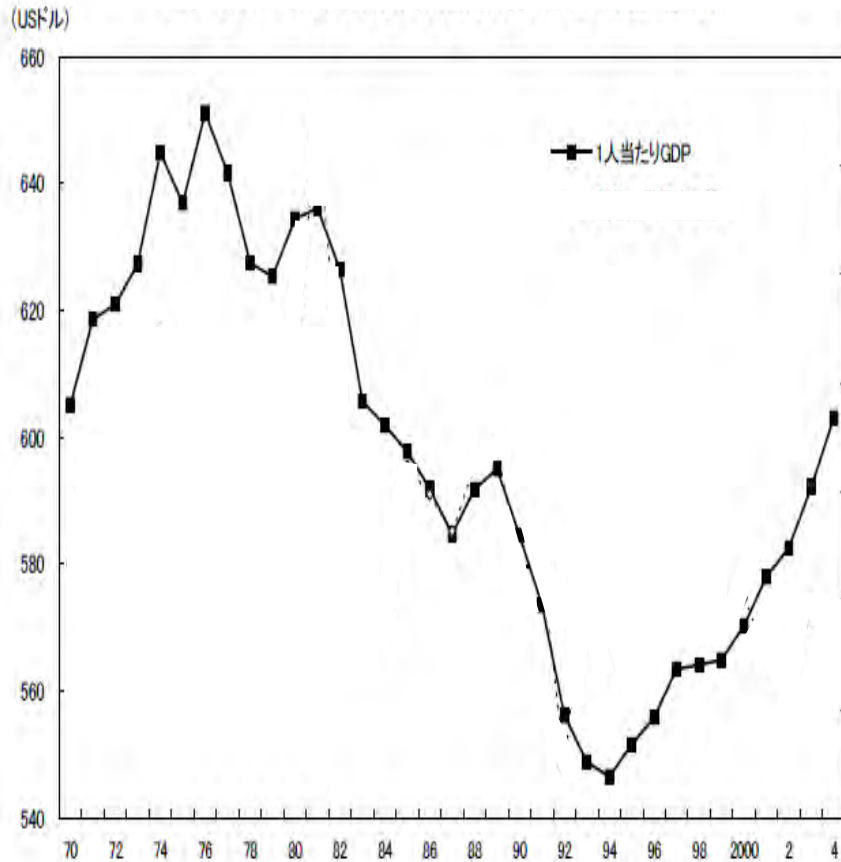
<国際社会の対応>

⇒国際社会の対アフリカ支援(パートナーシップ)の強化

- 国連において、近年、アフリカ問題の比重が一層増加(安保理決議の約6割はアフリカ問題、PKO予算・人員の約7~8割がアフリカ向け)。
- 2002年「G8アフリカ行動計画」及び2005年グレンイーグルズ・サミットで合意した新たな支援策に基づくG8の取組み。
- MDGsの実現に向けた国際的な取組の強化(05年9月にミレニウム宣言中間レビュー)。

変わりつつあるアフリカ

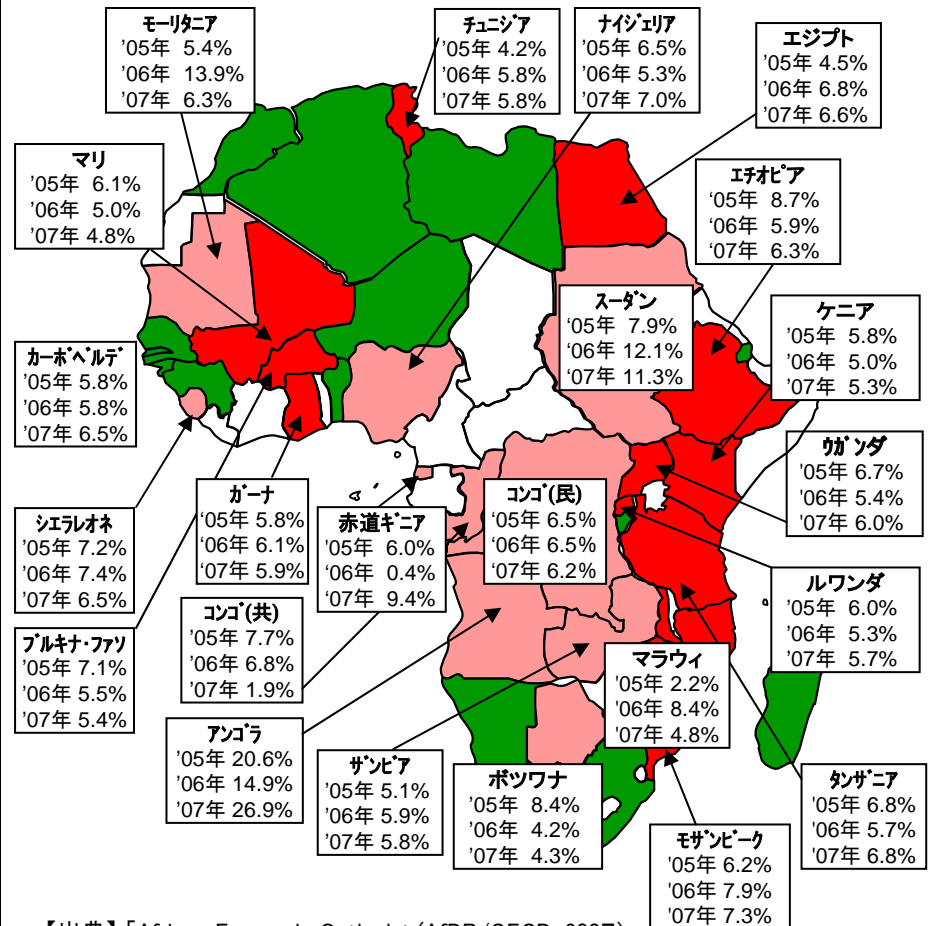
サブサハラ・アフリカの一人当たりGDPの推移



【出典】「African Economy transformed by Firms; Expansion of South African and Chinese Firms (in Japanese) 企業が変わるアフリカ—南アフリカ企業と中国企業のアフリカ展開—」(平野克己著)より(UN(2006)及びFAO(2005)のデータから著者作成)

近年GDP成長率が著しい国

05～07年のGDP経済成長率の平均が5%を超える国
(06年は推計値、07年は予測値)



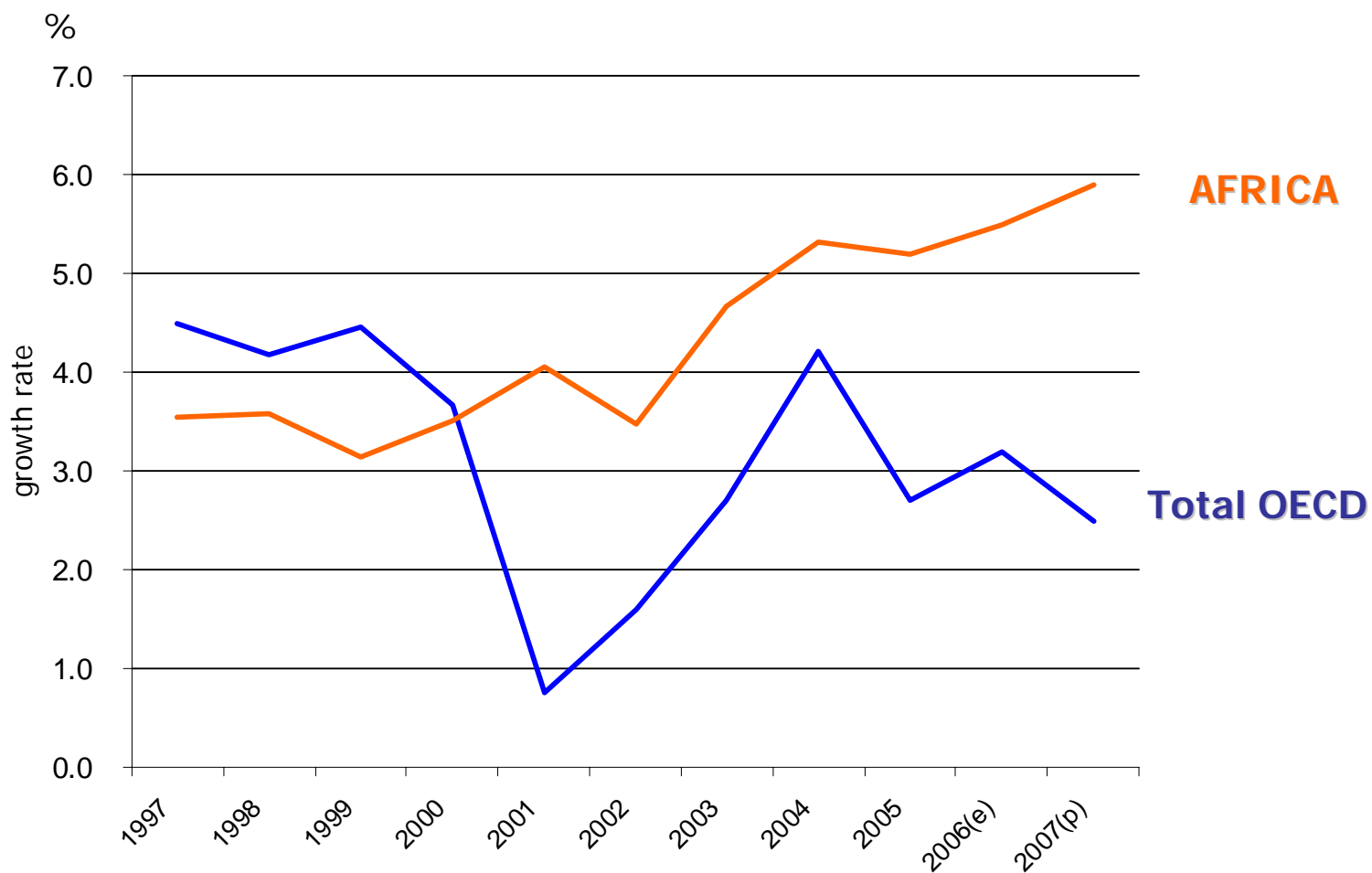
【出典】「African Economic Outlook」(AfDB/OECD, 2007)

【注1】 ■ : 石油・鉱物資源輸出に依存した経済成長を示す国(総輸出額に占める石油・鉱物資源シェアが50%以上)

■ : 堅実な成長努力が実を結びつつある国など

【注2】 ■ : 04～06年のGDP経済成長率の平均が4%を超える国
(06年は推計値、07年は予測値)

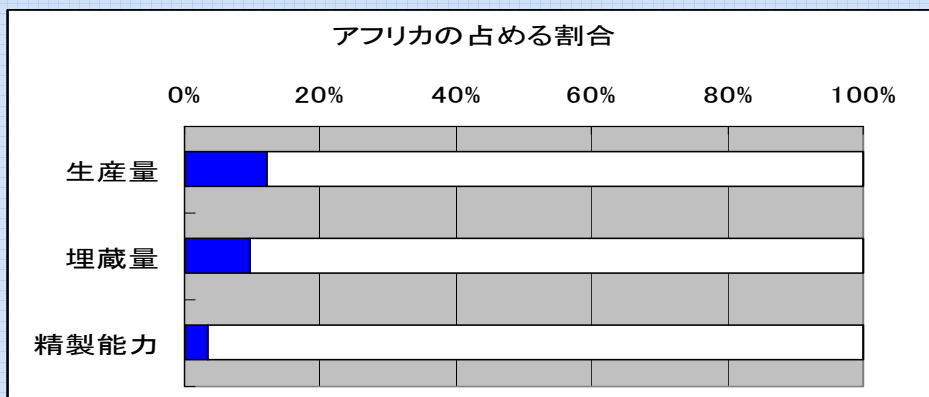
変わりつつあるアフリカ(経済成長率)



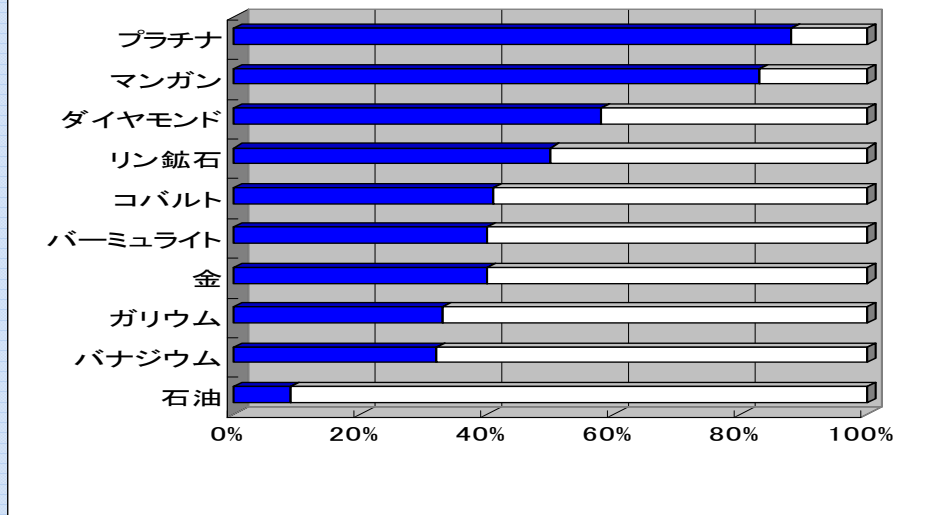
Sources: African Economic Outlook 2007, IMF, OECD

アフリカの経済的潜在力

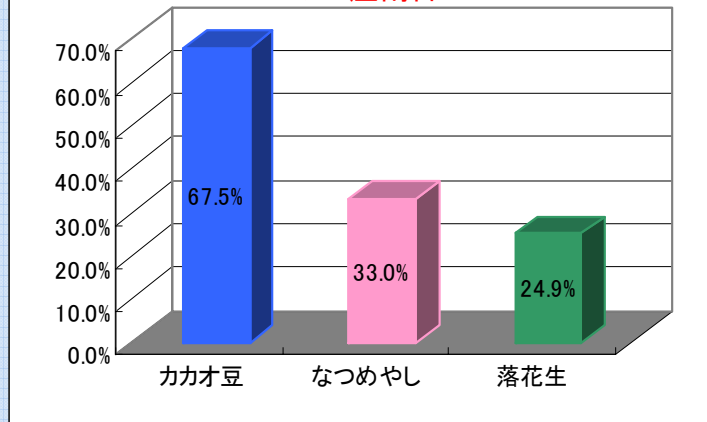
石油に関する世界に占めるアフリカの割合



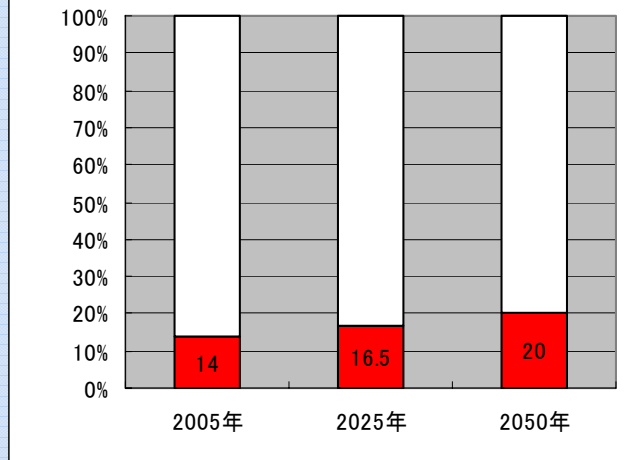
アフリカの鉱物資源埋蔵量の世界に占める割合



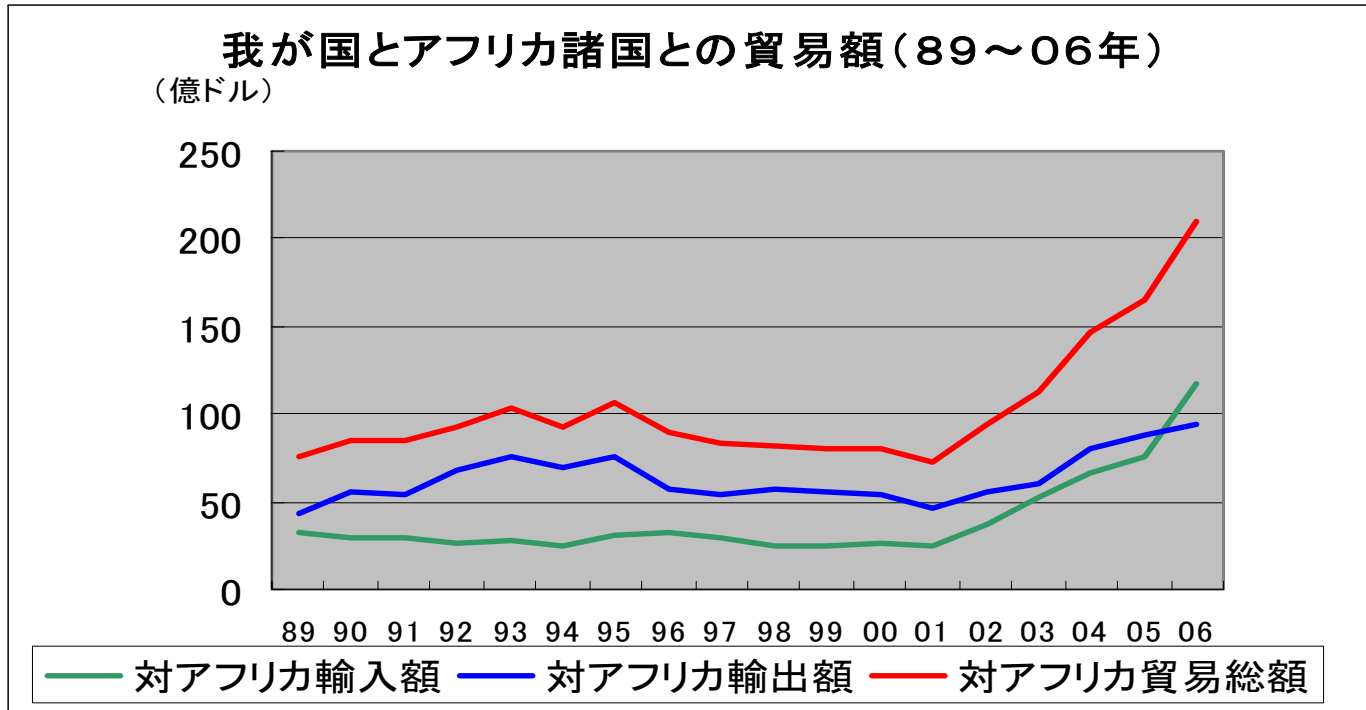
農産物に関する世界に占めるアフリカ全土の生産割合



世界人口に占めるアフリカの割合

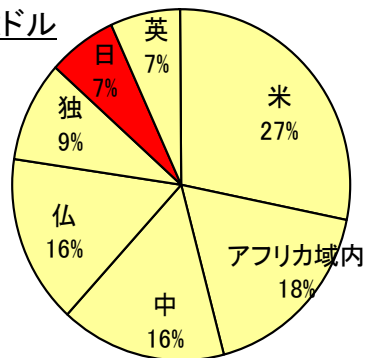


我が国のアフリカ諸国との貿易関係

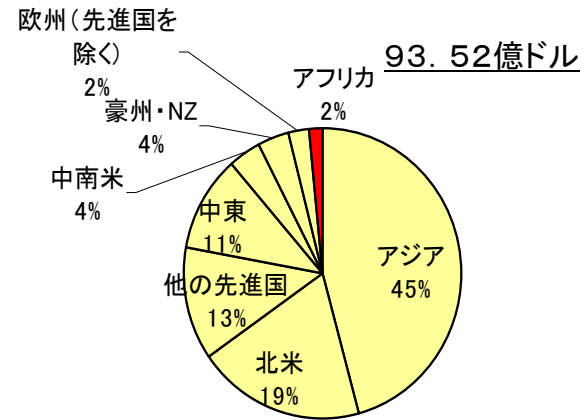


アフリカの全貿易額の中で我が国との貿易の占める割合 (06年)

116.78億ドル

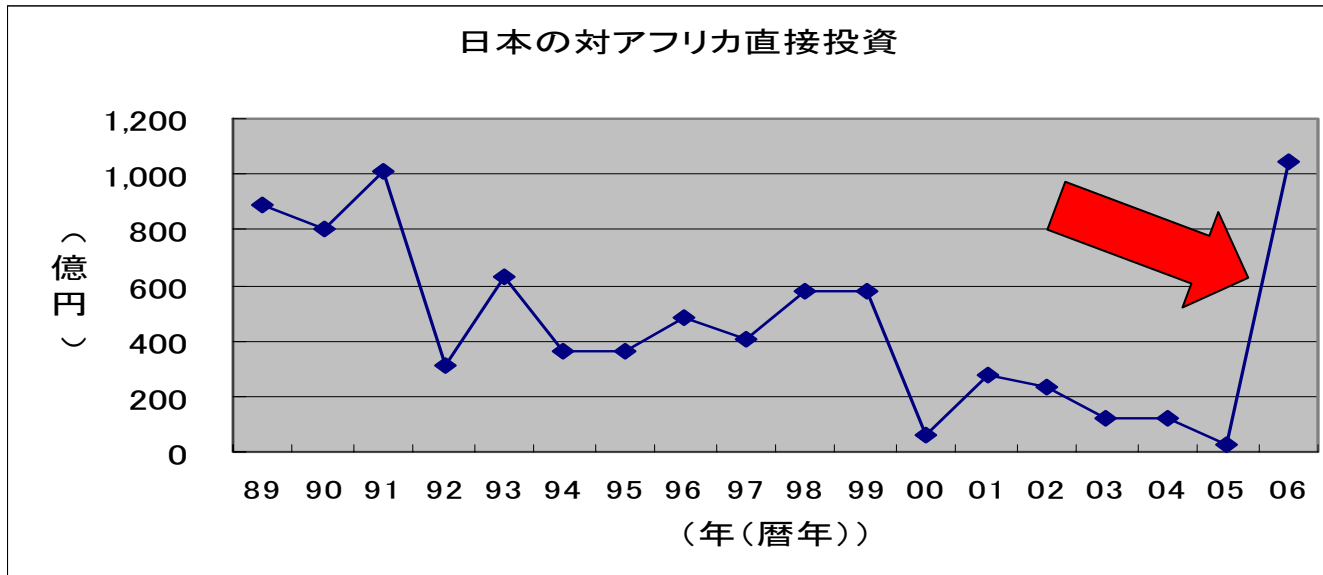


我が国の全貿易額の中で対アフリカ貿易の占める割合 (06年)



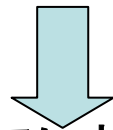
データ出典はいずれも、「2007, IMF, Direction of Trade Statistics」

我が国のアフリカ直接投資の現状



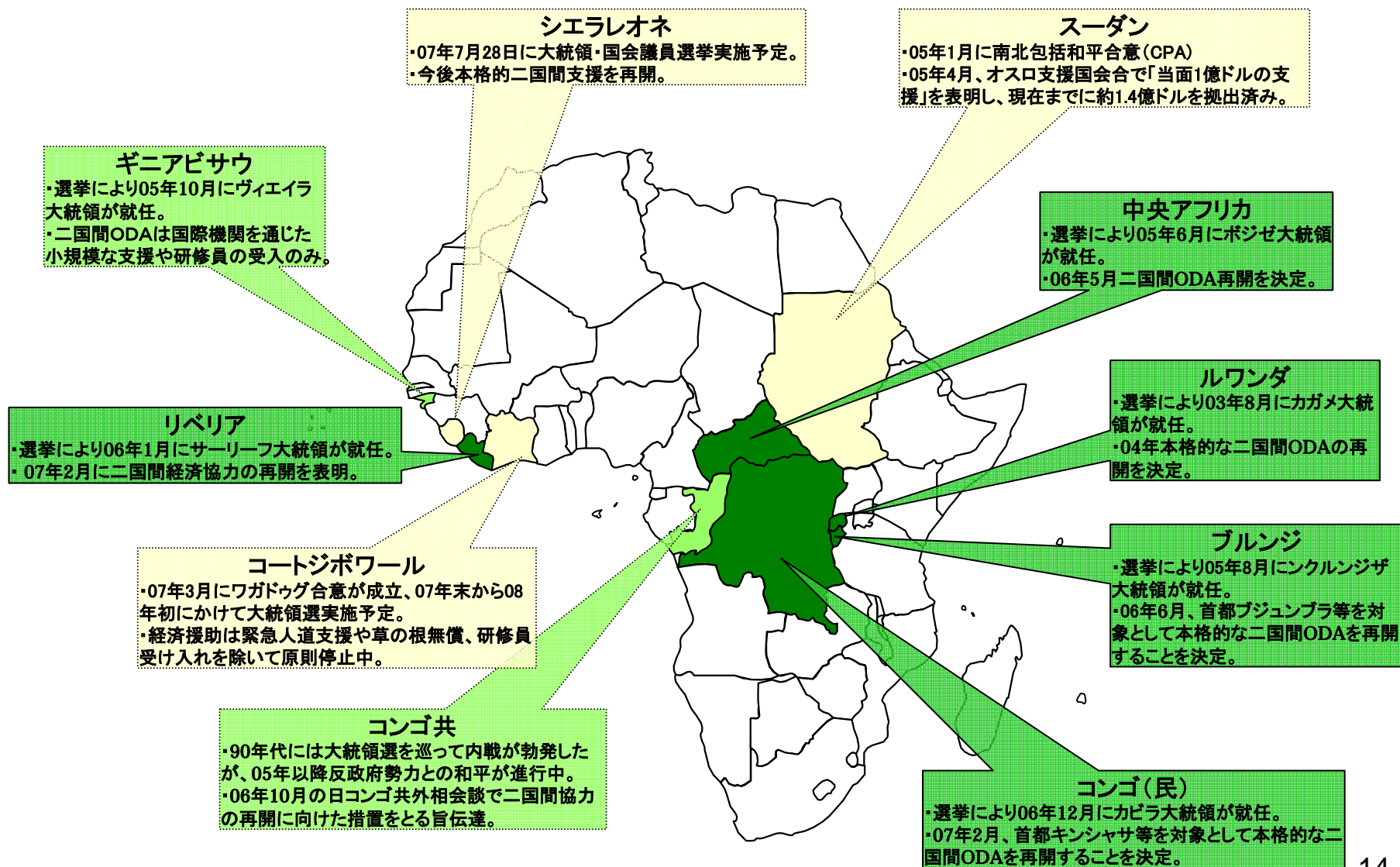
(財務省「対外及び対内直接投資」)

05年までの日本のアフリカに対する対外直接投資額は件数・投資総額ともに減少傾向。



他方、06年には、南アに対する輸送・製造分野での投資増大、ナイジェリアへのLPG分野への資本投下、マダガスカルへのニッケル分野への資本投下を背景として、05年と比較して増加がみられた。今後の動向要注意。

変わりつつあるアフリカ(平和の定着が進行している国)



アフリカに対する世界の関心の高まり



具体的な動き(例)

○欧米ODA額の顕著な増大

○2005年「アフリカの年」

✓ アジア・アフリカ首脳会議(4月)

✓ G8グレンイーグルズ・サミット(7月)

○2006年 第三回中国アフリカ協力フォーラム

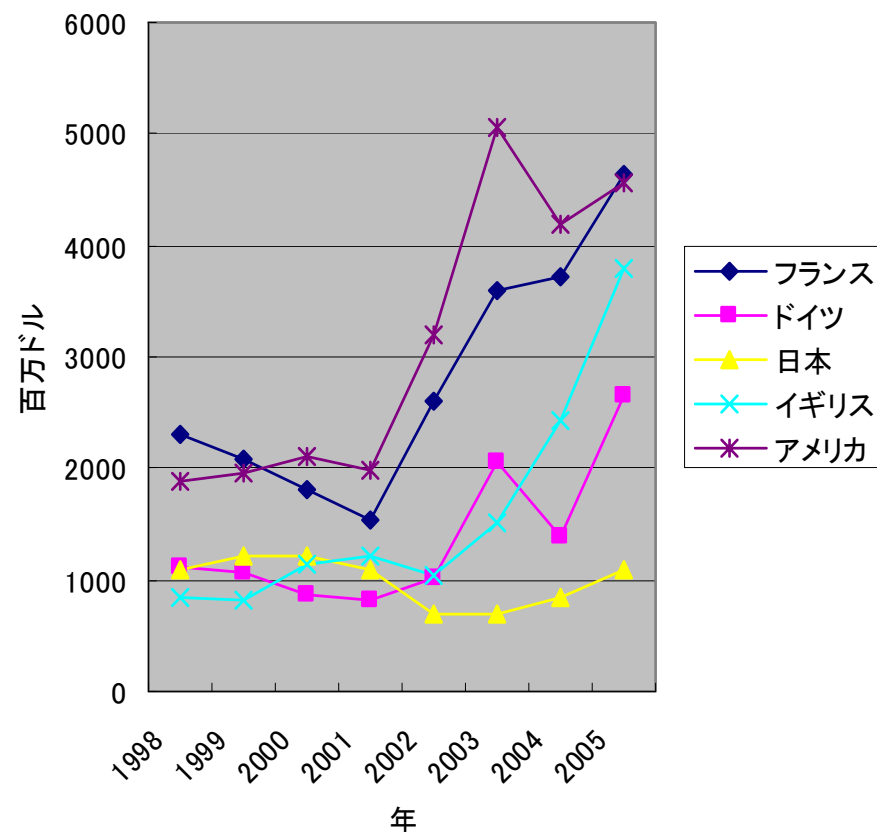
○2007年

✓ 第24回アフリカ・フランスサミット

✓ G8ハイリゲダムサミット

✓ EU・アフリカサミット(12月)

主要ドナー国のアフリカ支援実績の推移(支出純額ベース)



我が国の対アフリカODA等支援



3年間で対アフリカODA倍増

...05年4月のアジア・アフリカ首脳会議にて、03年実績を基準に3年間でアフリカ向けODAを倍増させ、その中心を贈与 (grant) とすることを表明。

5年間で100億ドルのODA事業

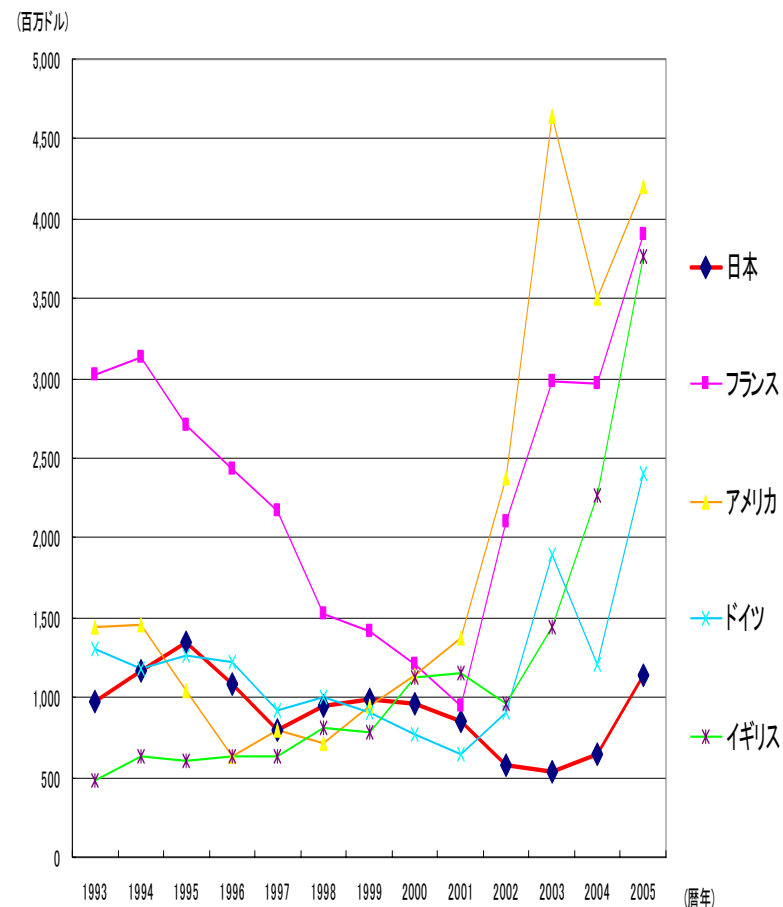
量積み増し (アフリカのみならず他地域も対象)

...05年グレンイーグルズ・サミットにおいて、04年実績を基準に、05年から09年までの五カ年で100億ドルのODA事業量を積み増すことを公約。

ドナー・コミュニティ全体による ODA総額の増加

2005年グレンイーグルズ・サミットにて、2010年までにG8その他のドナーからのODA年間総額が250億ドル増加することになる旨を明記。

主要ドナーの対アフリカODA総額推移



アフリカ外交の意義



我が国とアフリカの経済関係発展の可能性

- 資源の宝庫と潜在的市場であるアフリカを巡る国際的競争
資源確保を目的として欧米、アジア(中国、ASEAN)が、巨大市場であるアフリカへ進出。
我が国としても、長期的展望の下、アフリカにおける経済的利益の確保が重要。
アフリカとの経済関係の発展・安定化は我が国の経済的繁栄に大きく資する。

平和協力国家として国際社会の課題に対する貢献

- 国際社会の責任ある一員として世界の平和と安定を実現
アフリカ開発問題への積極的な貢献を通じ、国際社会における信頼を獲得。
- アフリカが国際社会の不安定要因となることを防止
貧困・紛争、難民、感染症、小型武器の拡散、犯罪・テロ等の拡散を防止。

我が国の外交基盤の強化

- アフリカ53カ国との友好・協力関係緊密化により我が国の支持基盤を強化・拡大
我が国の外交政策遂行の円滑化。我が国にとって望ましい国際ルールの実現。
各種選挙を通じた国際機関における責任ある地位の獲得。

TICAD I～TICAD IIIの成果(概略)



● TICAD I (第一回アフリカ開発会議、1993年東京)

- ① 79か国(アフリカ48か国)・26国際機関から首脳(アフリカ5か国)、閣僚級が参加。
- ② 冷戦終結後に国際社会のアフリカへの関心が減退する中、アフリカ開発への関心の再喚起に貢献。「東京宣言」を採択

● TICAD II (第二回アフリカ開発会議、1998年東京)

- ① 80か国(アフリカ51か国)・40国際機関から首脳(アフリカ13か国及びマレーシア)、閣僚級が参加。
- ② (イ)社会開発、(ロ)経済開発、(ハ)紛争予防と紛争後の開発の分野で優先的政策・行動及び達成すべき目標を明記した「東京行動計画」を採択。

● TICAD III (第三回アフリカ開発会議、2003年東京)

- ① 89か国(アフリカ50か国)・47国際機関から首脳(アフリカ23か国)及びAU委員長(首脳級)を含む1000名以上が参加。
- ② 「人間の安全保障」の重視及びNEPAD支援を掲げる「TICAD10周年宣言」を採択。
- ③ 「平和の定着」、「人間中心の開発」「経済成長を通じた貧困削減」を3本柱に整理。

TICAD IV（第四回アフリカ開発会議）



○TICADとは、アフリカ開発をテーマとする政策フォーラム。

1993年以降、日本が主導し、国連、国連開発計画（UNDP）、世銀等と共催して開催。5年に1回の首脳級会議に加えて、閣僚級会議（これまで4回）等を開催。

→90年代前半、冷戦終結に伴って、アフリカへの関心が低下。TICADの開催により、アフリカ問題の重要性を再認識。アフリカの「オーナーシップ（自助努力）」と国際社会との「パートナーシップ」の重要性を提唱。我が国がアフリカと同じ視線で開発問題について議論するアプローチをアフリカ側が高く評価。

○2003年のTICAD IIIには、アフリカ23か国の首脳及びアフリカ連合（AU）委員長を含む約1,000名が参加。

○2008年5月28－30日にTICAD IVを横浜で開催予定。

→近年のアフリカにおける政治・経済両面での前向きな変化を後押しするため、「元気なアフリカを目指して(Towards a Vibrant Africa)」との基本メッセージの下、今後のアフリカ開発への国際社会の取組を具体的に打ち出す。

→具体的には、①成長の加速化、②平和の定着、MDGs達成を含む「人間の安全保障の確立」、③環境問題・気候変動問題への取組に国際社会の知識・ノウハウ及び資金を結集。TICADIVでの議論をG8へ繋げていく。



基本メッセージ

「元気なアフリカを目指して: 希望と機会の大陸」

TICAD IVの重点事項

●成長の加速化

現在好調であるアフリカの経済成長を持続的でかつ貧困者をも幅広く裨益するものとするための支援を強化

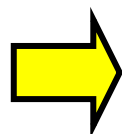
(貿易投資、インフラ整備、農業の各分野を含む)

●「人間の安全保障」の確立

- MDGs達成支援
- 平和の定着、民主化支援強化等

●環境・気候変動問題への対処

アフリカは気候変動に最も脆弱な大陸: 環境、特に気候変動への適応問題への取組を支援し、成長への障害を除去



国際社会の知恵と資金を結集



手法・アプローチ

● 以下の四分野で取組を呼びかける

- ① 成長の加速化
- ② MDGs達成
- ③ 平和の定着と民主化
- ④ 環境・気候変動問題への対処

(注)

- - 相互の連関、相乗効果が重要
- - 可能な限り持続的成長を促進

● 横断的要素

- - AU/NEPAD、地域経済共同体及び(新興ドナーを含む)二国間・多国間ドナーとの連携強化
- - アジアの経験の活用: 南南協力、三角協力とりわけアジア・アフリカ協力及びアフリカ内協力の支援
- - 人的資源開発、統治能力向上、コミュニティ能力強化
- - アフリカ諸国の多様性: 各国別の対応が必要
- - ガバナンス改善と法の支配促進支援
- - 民間セクター、財団、市民社会団体との連携

TICADIVの枠組みにおける協力分野(案)



1. 成長の加速化

(「緑と成長の大陸」支援)

(1) インフラ

- 広域道路等、電力インフラ整備
(One Stop Border Postを含む)

(2) 貿易・投資

- 円借款ツーステップローン(EPISA)を通じた
中小企業支援
- JBIC投資金融
- ODAと民間企業の活動の連携強化
- (アフリカ観光キャンペーン)

(3) 農業

- 緑の革命の推進
(灌漑、マーケティング、研究開発)

3. 平和の定着・民主化(人間の安全保障の確立)

(「平和構築と民主化」支援)

- 平和と安定のためのキャパシティ・ビルディング
- 人道・復旧・復興支援

2. ミレニアム開発目標(MDGs)の達成

(人間の安全保障の確立)

(「安心して健康なコミュニティづくり」支援)

(1) コミュニティ開発

- 一村一品運動の展開
- 包括的農村開発

(2) 教育

- 「みんなの学校」プロジェクトの展開
- 理数科教育の普及
- 科学技術研究協力

(3) 保健(含マルチ・バイ連携案件)

- 感染症対策
- 母子保健
- 保健医療従事者の育成支援
及び野口英世アフリカ賞を活用

4. 環境・気候変動問題への対処

(「クールアース推進構想」を通じた支援)

- 「クールアース・パートナーシップ」資金メカニズム

(1) 適応

- 干魃と自然災害、給水

(2) 緩和

- 植林・森林保全、環境管理

(3) エネルギーへのアクセス向上

- クリーンエネルギーの活用

(参考)



TICAD IVに向けての流れ

2003 第三回アフリカ開発会議(9/29-10/1 東京)

- 2004 TICAD アジア・アフリカ貿易投資会議(11/1-2 東京)
- 2006 TICAD 平和の定着会議(2/17-18 アディス・アベバ)

2007

- 2月12-14日 第四回アフリカ・アジア・ビジネス・フォーラム(ダル・エス・サラーム)
- 3月22-23日 TICAD 持続可能な開発のための環境とエネルギー閣僚会議(ナイロビ)
- 26-27日 G8 開発大臣会合 (ベルリン)
- 5月30日 G8 外相会合 (ポツダム)
- 6月6-8日 G8 ハイリゲンダム首脳会合
- 7月1-3日 AU総会(アクラ)
- 10月30-31日 TICAD IV 地域準備会合(ルサカ)
- 11月21-22日 TICAD IV 地域準備会合(チュニス)

2008

- 1月31日-2月2日 AU総会
- 3月20-21日 TICAD IV 閣僚級準備会議(リーブルビル)
- 4月5-6日 G8 開発大臣会合
- 5月28-30日 第四回アフリカ開発会議 (野口英世アフリカ賞第一回授賞式)**
- 6月26-27日 G8 外相会合
- 7月7-9日 G8 北海道洞爺湖サミット

TICADIVに向けた広報(概要)



親善大使委嘱状交付式

1. TICADIV親善大使の任命

アフリカ諸国を多数訪問している女優の鶴田真由さんをTICADIV親善大使に任命。今後、TICADIV関連行事等でTICADやアフリカに関する情報を積極的に発信頂く予定。

2. テレビ、新聞等、メディアへの働きかけの強化

アフリカに関する話題や、アフリカで活躍する日本人等を各種メディアに情報提供し、積極的にアフリカ関連情報報道企画に協力。政府公報番組の活用、海外主要メディアへの働きかけも含め、TICADIVを積極的に広報。

3. TICADIV広報パンフレット(和、英)及びポスターの作成、TICADIVホームページの充実

幅広い国民層がTICADや我が国の対アフリカ政策を理解し、関心を持って頂けるようなTICADIV広報用パンフレット及び海外向け英文パンフレットを作成。親善大使等を起用した広報用ポスターを作成し、全国に幅広く配付予定。

4. アフリカ関連イベントの充実

- (1) JICA、JBIC、JETRO及び国際機関等によるセミナー、シンポジウムを実施し、結果をTICADIVの場で報告。
- (2) アフリカの多様性を紹介する各種文化事業を計画中。企業からの協賛も得て、アフリカ音楽コンサートや写真展等を計画中。サッカー日本代表対アフリカ代表による「TICADIV記念サッカー親善試合」も開催予定。
- (3) 地方自治体と連携し、来日するアフリカ首脳の地方訪問を積極的に推進。



TICADIVロゴ



アフリカン・フェスタ



TICADIVロゴ入りサッカーボール



ドゥドゥ・ンジャイローズ・オーケストラ